

2022

10/21 FRI

14:25 ~ 15:55

名訳・迷訳——翻訳のたのしみ

原作の良さを生かすも殺すも翻訳次第。原文はこうやって生かされたり殺されたりしている、というたのしい実例を見ていながら、絵による「翻訳」の可能性も探ります。

柴田 元幸
×
きたむらさとし
講演会

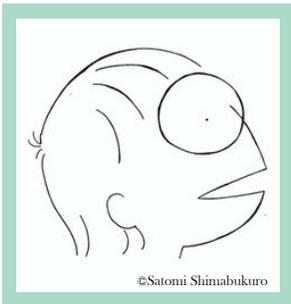


©Satoshi Kitamura

柴田 元幸

翻訳家、米文学者、東京大学名誉教授、神戸市外国語大学客員教授。ポール・オースター、レベッカ・ブラウン、ステューヴン・ミルハウザー、スチュアート・ダイバック、ステューヴ・エリクソンなど、現代アメリカ文学を中心に翻訳多数。1992年に『生半可な學者』で講談社エッセイ賞、2005年に『アメリカン・ナルシス』でサントリー学芸賞、2010年に、トマス・ピンチオン著『メイスン&ディクソン』（新潮社）で日本翻訳文化賞、2017年に、早稲田大学坪内逍遙大賞を受賞。翻訳に、マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒けん』（研究社）、『トム・ソーヤーの冒険』（新潮文庫）、ジョゼフ・コンラッド『ロード・ジム』（河出文庫）、エリック・マコーマック『雲』（東京創元社）、ステューヴン・ミルハウザー『ホーム・ラン』（白水社）など。

翻訳については、村上春樹との共著『本当の翻訳の話をしよう』（新潮文庫）、『翻訳教室』（朝日文庫）等。2022年には既に『シャーロック・ホームズで学ぶ英文法』（アスク出版）、マグナス・ミルズ『鑑識レコード倶楽部』（アルテスパブリッシング）、シルヴィア・プラス『メアリ・ヴェントゥーラと第9王国』（集英社）、『英文精読教室』5,6巻（研究社）、ポール・オースター『写字室の旅/闇の中』（新潮文庫）を出版。文芸誌『MONKEY』および英語文芸誌 MONKEYの責任編集。



©Satomi Shimabukuro

きたむらさとし

絵本作家、翻訳者、画家、作家、神戸市外国語大学客員教授。フリーランスのイラストレーターとして東京で広告、雑誌関係の仕事をする。1979年に渡英。1981年に初の絵本 *Angry Arthur* (Hiawyn Oram 文) の絵を担当、この作品は1983年度の新人絵本イラストレーターに贈られるマザーグース賞受賞。1983年より2009年まで英国在住。その間、多数の絵本、詩集のイラストまたミュージアムデザインにかかわる。日本ではアメリカ文学者、翻訳家の柴田元幸氏のエッセイや翻訳のイラストレーションを数手がける。中南米を中心に、様々な国でワークショップを行い、自作の紙芝居を上演している。2009年に帰国。2018年より神戸に在住。『ミリーのすてきなぼうし』は小学校2年の教科書（光村図書）に掲載。デビット・マッキー『ぞうのエルマー』シリーズ翻訳。近著絵本に、*Hat Tricks* (日本語版『アブラカタブラカタクリコ』BL出版)、*Smile Shop* (日本語版『スマイルショップ』岩波書店)。When *Creature Met Creature* (文：John Agard；絵：Satoshi Kitamura, Scallywag) は、岩波書店より日本語版『ことばとふたり』と題して今秋出版予定。柴田元幸責任編集英語文芸誌 *MONKEY* に漫画 "The Heart of the Lunch Box" 掲載。同日本語版『MONKEY』Vol. 27の表紙絵担当。



柴田元幸先生近著



きたむらさとし先生近著



【場 所】神戸市西区学園東町9丁目1 神戸市外国語大学第2学舎2階503教室

【時 間】14:25 ~ 15:55

【予 約】対面（先着80名）※一般の方は申込要。本学教職員・学生は申込不要。
オンライン（定員なし）

【参加費】無料

【企 画】神戸市外国語大学 英米学科

【問合先】神戸市外国語大学 研究所グループ Mail: kouen@office.kobe-cufs.ac.jp

対面申込は
こちら▼



※一般の方のみ
申込が必要です

オンライン視聴は
こちら▼



オンライン参加は
申込不要です